

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 3 日現在

機関番号：13601

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22520175

研究課題名（和文） 中世後期真言宗寺院における学問形成についての基礎的研究

研究課題名（英文） A fundamental study on the academic formation in late medieval Shingon temple

研究代表者

渡辺 匡一（WATANABE KYOICHI）

信州大学・人文学部・准教授

研究者番号：40306098

研究成果の概要（和文）：内陸地域の真言宗寺院が所蔵する行法書の調査を通して、中世における学問形成のあり方を考察した。佛法紹隆寺（長野県諏訪市）、宝聚院（福島県いわき市）が所蔵する行法書の調査を行い、データベースを構築した。また、京都醍醐寺と下野国諸寺院を往還し、後の真言宗松橋流・地藏院流の関東における盛行の礎を築いた俊海について、事跡・布教のあり方などを明らかにした。

研究成果の概要（英文）：By studying Gyoho-Syo Shingon temple holdings, we considered the way of academic formation in the medieval. Conducted a survey of Gyoho Statement Buppo Shoryu Temple (Suwa, Nagano Prefecture), Hojuin (Iwaki City, Fukushima Prefecture) is holding, I built a database.

Investigate the vestige of Shunkai is a monk of Daigo-ji Temple in Kyoto, we discussed dissemination of Jizoinryu and Matsushashiryu in the Kanto region.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2011年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2012年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	3,100,000	930,000	4,030,000

研究分野：日本中世文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：行法次第書・真言宗・佛法紹隆寺・宝聚院・善通寺

1. 研究開始当初の背景

寺院の典籍調査・研究としては、国語学を中心とした高山寺典籍文書総合調査団による高山寺（京都市）、青蓮院（京都市）などの調査・研究に始まり、国文学研究資料館による西教寺（大津市）、善通寺（善通寺市）などの調査・研究、大阪大学による河内金剛

寺（河内長野市）、随心院（京都市）の調査・研究、名古屋大学を中心とする仁和寺（京都市）、真福寺（名古屋市）などの調査・研究などが挙げられる。これら諸宗派の大寺院の調査・研究によって、経典・和歌・物語・注釈書などの新資料が次々と報告され、中世文

学研究に「資料学」なる新領域を創出するに至った。2005年5月、中世文学学会創設50周年記念大会シンポジウム「中世文学研究の過去・現在・未来」(青山学院大学)の第一分科会として「中世文学と資料学」が設けられたのは、象徴的な出来事であった。代表者も、国文学研究資料館による善通寺調査に関わり、研究成果として、「善通寺蔵『秘密源底口訣』紹介と翻刻」(『善通寺教学振興会紀要』善通寺教学振興会 1999年2月)、「光国関係資料から見る善通寺蔵書形成の一齣」(『古典形成の基盤としての中世資料の研究』国文学研究資料館 2006年3月)などを提出している。

代表者は、諸宗派の大寺院の調査・研究に関わる一方で、いわき明星大学赴任時(1998～2002)より、地域寺院に注目し、奥州岩城を本拠地とする浄土宗名越派寺院の調査・研究を行ってきた。科学研究費補助金「中世末期浄土寺院における学問の研究」(奨励研究(A)・平成11-12年度)、「中世浄土宗寺院における学問形成についての基礎的研究」(基盤研究(C)(2)・平成14-17年度)を受け、新出資料『三語集』などの分析を通して、中世、岩城における浄土宗寺院の学問状況が、中央(都)に匹敵する水準にあったことを論証した。研究成果として、「如来寺蔵『三語集』について—浄土宗名越派の説草集—」(『説話文学研究』37 説話文学会 2002年6月)、「袋中の本箱」(『説話文学研究』38 説話文学会 2003年6月)などを提出している。

2. 研究の目的

代表者は、浄土宗名越派寺院と並行して、奥州岩城における真言宗の談義所であった宝聚院(いわき市)の典籍調査・研究を行ってきた(1999年9月～)。調査・研究の進展に伴い、宝聚院には、醍醐寺(京都市)や高野山(和歌山県伊都郡)など、真言宗の有力

寺院とは別に、信州諏訪に所在する佛法紹隆寺や上社神宮寺との交流が見られることが明らかとなった。

他地域寺院との交流(ネットワーク)という問題は、代表者が信州大学に赴任し、佛法紹隆寺の典籍調査・研究を行うに至って(2003年5月～)さらに重要性を増すこととなった。諏訪地方における真言宗の談義所であった佛法紹隆寺には、本山である醍醐寺ではなく、下野・上野国の諸寺院や、岩城国の諸寺院からもたらされた書物が多く残されていたからである。

中世における内陸地域の真言宗寺院の学問形成を、他地域寺院との交流による書物(知識)の伝播によって明らかにするという研究方法を着想した代表者は、その可能性を、「佛法紹隆寺覚え書き」(『内陸文化研究』3号 信州大学人文学部 2004年2月)、「法の道を伝える僧侶たち—佛法寺七世俊円の書写本を中心に—」(『佛法紹隆寺開創千二百年記念誌』佛法紹隆寺 2006年11月)として提出し、中世文学学会創設50周年記念大会シンポジウム第一分科会、「中世文学と資料学」において、「地域寺院と資料学」の題目で発表した。科学研究費補助金「中世後期内陸地域における真言宗寺院の学問状況についての基礎的研究」(基盤研究(C) 平成19-21年度)が採択されたことによって、佛法紹隆寺を中心とした典籍の調査・研究は順調に進み、各寺院の書物の目録はほぼ完成、佛法紹隆寺と下野・上野国、磐城国の寺院との密接な関係が具体的に明らかになるとともに、画像データの公開も2009年度末から順次進めていく予定である。ところが、調査・研究を進めていく内に、新たな書物群の存在が浮き彫りになった。佛法紹隆寺、宝聚院で学問修養に励んでいた僧侶達が伝受した行法の次第書である。枳形本の体裁を持つこれらの書物は、

元々僧侶「個人」の所有物であったがために、寺院の蔵書とは区別・別置されていたのである。佛法紹隆寺で約 2000 点、宝聚院で約 1000 点に及ぶ「行法次第書」には、僧侶達が行法を「何時、何処で、誰から」学んだかが記されており、駿河国や安房国の寺院など新たな情報により、各寺院の学問形成を更なる広がりの中で考えることが可能となったのである。代表者は、「行法次第書」の調査・研究の意義と可能性の一端を、「よぢり不動考」(『説話文学研究』44 号 説話文学会 2009 年 7 月)として提出した。本研究は、平成 19-21 年度科学研究費補助金によって行った典籍の調査・研究の成果を進展させ、「行法次第書」の調査・研究を加えることによって、更に精緻な学問形成のあり方を明らかにすることを目的とする。

3. 研究の方法

(1) 佛法紹隆寺所蔵の行法次第書の書肆カード取り、見直しを経てパソコンへのデータ入力を行い、データベースの再構築を行う。並行して画像データの収集作業を行う。

(2) 宝聚院所蔵の行法次第書の書肆カード取り、見直しを経てパソコンへのデータ入力を行い、データベースの再構築を行う。並行して画像データの収集作業を行う。

(3) 佛法紹隆寺、宝聚院のデータベースの分析により、書物・行法次第書が、どこから、誰によって運び込まれ集積されていたかを、書誌・画像データをもとに解析し、中世における内陸地域・東海・関東・東北を伝播する知識によって形成された学問のあり方を明らかにする。

(4) 画像データをともなったデジタルアーカイブを構築し公開する。

4. 研究成果

(1) 佛法紹隆寺所蔵の行法次第書の書肆カ

ード取り、見直しを経てパソコンへのデータ入力を行い、データベースの再構築がほぼ完成した。所蔵者と話し合いながら、データベース、画像データの公開を目指している。

(2) 宝聚院所蔵の行法次第書の書肆カード取り、見直しを経てパソコンへのデータ入力を行い、既に終えている他蔵書も併せてのデータベースの再構築を終えた。寺誌の刊行と併せて、所蔵者と話し合いながら、データベース、画像データの公開を目指している。

(3) 佛法紹隆寺、宝聚院のデータベースの分析と、関係真言資料を用いることによって、室町時代中期に、京都醍醐寺と下野国諸寺院を往還し、後の真言宗松橋流・地藏院流の関東における盛行の礎を築いた俊海について、事跡・布教のあり方などを明らかにした(〔図書〕②)。

(4) 行法次第書などを通して明らかとなる 12 世紀前半の仏教界の状況を前提にして、『今昔物語集』の物語構想と現実の実教実相とのずれを考察した(〔図書〕①)。

(5) 行法次第書、五重相伝など、真言宗における師資相伝のあり方を参考にしながら、戦国時代の浄土宗の学僧である袋中(良定)の相伝のあり方を考察した(〔学会発表〕①)。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔学会発表〕(計 1 件)

① 渡辺匡一、袋中を相伝すること、仏教文学会、2011.5.7、壇王法林寺

〔図書〕(計 2 件)

① 小峯和明・竹村信治・千本英史・金文京・小川豊生・松本真輔・渡辺匡一・李市埃・渡辺麻里子・増尾伸一郎・伊藤聡・高陽・馬駿・山口眞琴・吉原浩人・鈴木彰・目黒将史・河

野貴美子・李銘敬・金英順・司志武・グエン・
ティ・オワイン・劉九令・金英珠・前田雅之・
会田実・深沢徹・張龍妹、勉誠出版、『東ア
ジアの今昔物語集』、2012、pp. 138-151

② 阿部泰郎・苫米地誠一・上川通夫・末木
文美士・落合俊典・荒木浩・三好俊徳・原克
昭・中川真弓・牧野淳司・山本真吾・船田淳
一・松尾恒一・橋本正俊・津田徹英・鷹巣純・
村松加奈子・横内裕人・川崎剛志・福島金治・
渡辺麻理子・渡辺匡一・恋田知子・近本謙介・
山本一・米田真理子・佐藤愛弓・高橋秀城・
小助川元太・竹林舎、『中世文学と寺院資料・
聖教』、2010、pp. 476-500

6. 研究組織

(1) 研究代表者

渡辺 匡一 (WATANABE KYOICHI)

信州大学・人文学部・教授

研究者番号：40306098

(2) 研究分担者

(3) 連携研究者